

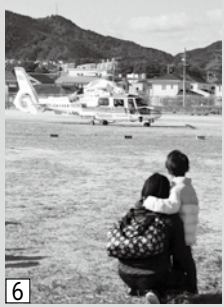


①小方中学校吹奏楽部の生演奏が、華を添えてくれました②各分団の一齐放水。渾水のため水道水に影響のない場所からくんだ小瀬川の水を使用③震災の犠牲者への黙とう④新入団員の新たな戦力に期待。

集結！消防力

晴海臨海公園

4年ぶりに開催した『消防出初式』。会場には12の消防団と大手企業3社の消防隊総勢162人が集結しました。消防車の先導による一齐行進に、多くの観衆の目が注がれます。式典では、能登半島で起きた地震の犠牲者を悼み黙とうをささげました。また、11月に行われた消防ポンプ操法の県大会で、優良賞を受賞した第4分団の訓練展示では、迅速で規律ある姿を披露。廿日市市から訪れた小屋本大晟くん（6歳）、侑晟くん（4歳）兄弟は広島市消防局のヘリコプターを見学し「カッコよくて乗り心地よかった」とうれしそうでした。最後は各分団の一齐放水で締めくくりました。久しぶりの開催を振り返り、第2分団の島原将志さんは「いよいよ訓練に身が入ります」と決意を新たにしました。



⑤暴力監視追放協議会と大竹高校生徒が、うどんなどを振る舞いました⑥ヘリコプター離陸体制を見つめる親子⑦第4分団の訓練展示。



おわびと訂正
広報おたけ令和6年1月号11ページに掲載した「ひな流し」の記事の会場に誤りがありましたので、おわびして訂正します。
防鹿前洲渡し前河原
旧徳仁原小学校前河原

1月18日 3月3日に行われる『ひな流し』の流しびなの頭を作るために集まった青少年市民会議のメンバー11人。朝から始まり、作業を終えた15時には、約1千組のおびな・めびなの頭ができました。参加した泉須美子さん（92歳・写真の後列中央）は、「子どもたちが流しびなを作りながらお母さんたちやおばあちゃんたちと楽しくお話をする機会になれば」という願いを込めて頭を作ったそうです。『ひな流し』は、子どもの成長と健康を願い、紙粘土や色紙で形作った流しびなをわらで作った棧俵に乗せて川に流す催しです。



12月24日 玖波公民館で『KUBA舞踏会シンデレラパーティー』が開催され69人が参加しました。シャンデリアやレッドカーペット、玉座や甲冑などで西洋風に飾られ華やかで会場です。魚池の池田シェフがこの日のためにシンデレラをイメージして考案した馬車やドレスなどを表したデザートが会場に彩りを添えます。最初は「シンデレラ」についてのミニ講座。「日本版シンデレラではガラスの靴ではなく扇子が出てくる」という話に皆さん興味津々。食事の後、みやびなドレスに着替えた女性陣。ダンスタイム開始です。プロによるダンスショーの後、バンドの生演奏とともに、ペアを組んだり、輪になったりして踊り、終始笑顔の参加者たち。加山雄三さんの「サライ」の合唱や最後のプレゼント交換まで、充実したひとときを過ごしました。今回が初参加という田口桂子さん（65歳 三ツ石町）は、「自分で動いて、汗をかいてとにかく楽しかった。大人になってこんなに楽しいことはない」と大絶賛でした。



それぞれの目標へと進む二十歳集う

アゼリアホール

新型コロナウイルスが5類に移行され、マスクの着用なしとなってから初めて開催された『二十歳のつどい』。出席した平成14年から15年生まれの161人は、お互いの晴れ姿に気持ちも高揚。久々の再会に話が盛り上がります。

式の初めには、1月1日に石川県能登半島で起きた地震で被災された方を悼み、来場者全員で黙とうしました。

二十歳代表の亀井颯太さん、丸茂希颯さんは、「自己の行動に責任を持ち、成長し続けることを誓います」と宣誓。宮本小太郎さん、倉重屋萌さんは、ここまで育ててくれた親への感謝の言葉を述べます。倉重屋さんは最後に、「2人のように偉大であたたかい存在になりたい」と語りました。

式典後は、ビンゴゲームが行われ、最後の景品をめぐるじゃんけんまで大盛況のうちに幕を閉じました。

日程終了後の会場前で、ポーズを変えたりして何度も記念写真を撮る皆さん。終始熱冷めやらぬ様子でした。



1/8 MON

市の公式フェイスブックで、このほかの写真も見ることができます。



PART1